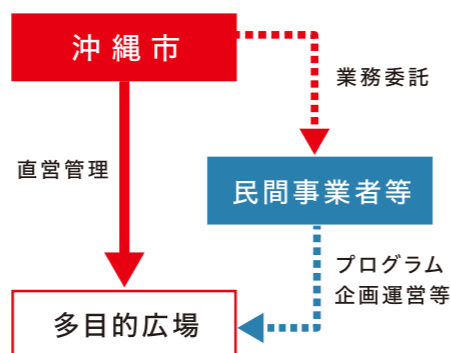


7. 管理運営計画

(仮称)モータースポーツ多目的広場は、県内では事例の少ない施設であり、「安全対策」「騒音対策」「人材育成」を確実に実施し、スポーツ性を高めていくためにも、市が中心となってしっかりと進めていく必要がある。また、専門性の高いモータースポーツ競技の運営等に関しては、民間活力を活用しながら、市との協働体制で実施する。

したがって当面、市の直営方式+サービス/維持管理の業務委託方式の管理・運営を行うことが望ましいと考える。

施設の管理運営体制については、施設長や事務員、専門スタッフなどが役割を分担しながら、効率的な管理運営体制を構築していくものとする。



部門	スタッフ	人数	業務概要
全体	施設長	1	○全体運営統括(責任者) ○プレス・マスコミ等の取材対応・PR業務 ○県内施設・関係団体との連絡・連携 ○各種決済・承認、緊急時の判断 ○緊急時の指揮 ○市(担当部署)への報告、協議、調整等
事務	事務員	1	○各種届出・事務処理 ○スタッフの勤怠管理、労務管理 ○出納管理、金銭管理、支払い業務 ○各帳票類の作成、管理 ○電話対応 ○入館者数等、記録データの集計等 ○営業(使用時の説明等を含む) ○スケジュール(予約)管理 ○使用契約の締結
技術	専門スタッフ	2	○施設・設備の日常点検、営繕、メンテナンス、業者への補修依頼 ○自主事業等の企画・実施管理 ○競技主催者との調整・安全管理に関するアドバイス ○貸出中の監視業務 ○レスキュー等

8. 今後の課題

施設整備に関する課題

- ・精度の高い測量調査結果に基づいた検証が必要
- ・基本設計の前段階における土質調査の実施
- ・出入口を他に1箇所設けるため倉浜衛生施設組合との使用交渉が必要
- ・整備候補地へスムーズな誘導ができるよう案内板等の設置、道路拡幅等の検討
- ・関係者の意見を聞きながら、設計段階から運営を想定した調整を行うことが必要
- ・舗装設計において「すべり抵抗性」を考慮するなどの検討が必要
- ・舗装メンテナンス等を考慮した舗装構成の検討
- ・騒音に対する自主基準の設定をした上で、効果的な遮音壁設置の詳細な検討(壁高、吸音材、設置場所等)
- ・自主基準の設定について、現地の特性を踏まえた上で、関係者を含めた検討の中で遵守できる基準の設定が重要
- ・景観との調和や意匠性等を配慮した遮音壁の検討が必要
- ・騒音対策では、ハード面(遮音壁の設置)だけでなく、ソフト面での対策も必要
- ・周辺の民間事業者の空き地等を活用するなど臨時駐車場を確保する等の対策が必要

管理運営に関する課題

- ・供用開始後にスムーズに収益化が図れるよう管理運営の支援に継続して取り組む
- ・管理運営が健全にスタートできるよう、施設職員の確保や実施事業の計画作成などが必要
- ・施設の供用開始までに施設利用等で情報共有を図るため、県内モータースポーツ関連団体と密に連携することが必要
- ・自動車関連産業及び関連機関等とのネットワーク構築
- ・中小企業・商店等が宣伝媒体として活用しやすい広告事業の検討
- ・市民等に愛される施設づくりを検討(施設名称の公募等)
- ・什器・備品について、実際の使用を想定した機能的な製品を選択することが必要
- ・観光振興に必要な取り組み(沖縄市観光物産振興協会、沖縄観光コンベンションビューロー、県内プロモーター等との連携)
- ・廃棄物等に関する取り組み

(仮称)モータースポーツ多目的広場整備計画調査業務 概要版

発行日:平成30年3月

発行者:沖縄市 企画部 プロジェクト推進室

沖縄市仲宗根町26番1号

Tel:098(939)1212(代表)

(仮称)モータースポーツ多目的広場 整備計画調査業務

【概要版】

平成30年3月
沖縄市



1. 本業務の背景と目的

沖縄市では、モータースポーツ振興による滞在型観光の推進や雇用創出、地域活性化を目指して、「(仮称)沖縄サーキット」の実現に向けた取り組みを進めているところである。

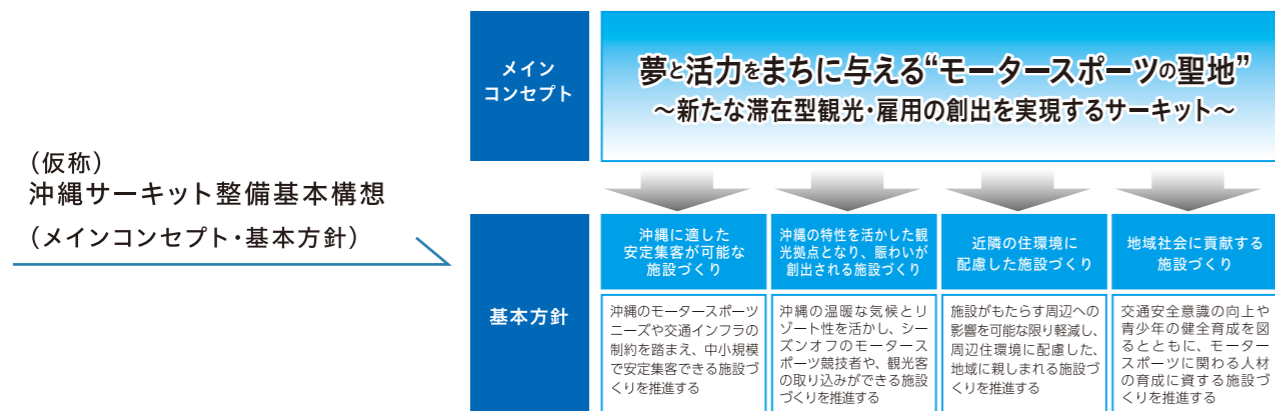
平成27年度より、モータースポーツ振興イベントとして、「コザモータースポーツフェスティバル」を毎年度開催しており、徐々に認知度が高まってくるなか、イベント的な実施だけでなく、モータースポーツが「スポーツ」として広く市民県民に感動や夢を与えられるよう、日常的に触れ合える拠点の整備が課題となっている。

そこで、平成28年度に取りまとめた「(仮称)沖縄サーキット整備基本構想」では、「(仮称)モータースポーツ多目的広場」の整備を短期ビジョンとして掲げた。本業務では、その短期ビジョンの実現に向けた具体的な計画を策定するため、整備候補地、基本方針、施設計画、事業計画、管理運営計画等について検討を行うものである。

2. 過年度調査の概要

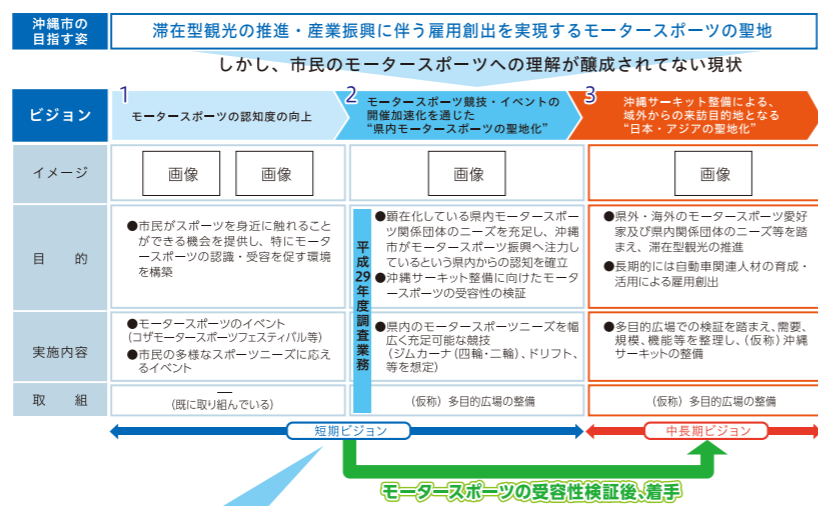
これまで本市では、(仮称)沖縄サーキットの整備に向けた検討として、平成27年度に「サーキット場及び関連産業に関する基礎調査」を実施し、新規サーキット建設の優位性や整備に向けた提言をとりまとめた。

平成28年度は、「(仮称)沖縄サーキット整備基本構想」を策定し、(仮称)沖縄サーキット整備におけるメインコンセプト及び基本方針等を定めるとともに、短期・中長期ビジョンを掲げ、本市が目指すべき(仮称)沖縄サーキットの基本的な方向性を取りまとめた。



(仮称) 沖縄サーキットの整備に向けた段階的整理

(短期ビジョン・中長期ビジョン)



平成29年度調査業務は、短期ビジョンで掲げている『(仮称)モータースポーツ多目的広場』の具体検討を行い、整備計画を策定しました。

3. 整備候補地の検討

整備候補地については、基本構想で整理した3つの候補地域の中からそれぞれ候補地を抽出し、騒音等の周辺環境への配慮を最優先事項としながら、事業実現性や整備コストなどの視点で評価を行った。

候補地①		沖縄市霊園より南側付近 提供施設区域内 【評価点 18点(36点中) / 敷地面積 約20,000㎡】 ・本市所有地ではあるが、米軍施設用地内であるため、利用する場合において共同使用の手続き等に一定期間要することや、造成コストなどが増大となることが予想されることから、事業実現性が低いと評価された。 ・周辺施設として、沖縄市霊園、養鶏団地、酪農団地が約200～350m以内に立地している。
候補地②	最優先候補地 	旧倉浜ごみ処理施設跡地 農業振興地域白地地域 【評価点 24点(36点中) / 敷地面積 約24,000㎡】 ・本市所有地であり、比較的造成された広い平地で、施設配置がしやすい形状である。また、農業振興地域(白地)であり、整備に関して特段の手続き等は必要ないことから他の候補地よりも優位性があると評価した。 ・周辺施設として、沖縄市霊園、養鶏団地、養豚場、酪農団地が約150～250m以内に立地していることは留意事項である。
候補地③		旧知花ゴルフレンジ 準工業地域 【評価点 20点(36点中) / 敷地面積 約12,000㎡】 ・造成された平地であり、造成はほとんど必要ないが、狭小な民有地であり、かつ周辺に商業や住宅が立地する騒音に関する環境基準が定められた地域であることから、評価が低くなった。

最高得点である候補地②については、本計画を策定するうえでの最優先候補地として設定するものとし、正式な整備地の決定にあたっては、今後、各関係者との調整等を行ったうえで定めるものとする。ただし、今後、選定した候補地以外にも必要な要件を満たす候補地が確保できる見通しがついた場合には、本計画での検討結果との比較検討も踏まえ、最終的な決定を行うものとする。



整備候補地の全景 (整備対象範囲は砂利舗装部分の約 15,000 ㎡となる)

4. 騒音測定調査

(仮称)モータースポーツ多目的広場における車両走行に伴い発生する騒音の効果的な対策を検討するため、車両走行による騒音調査を平成29年8月30日に県内類似施設であるククル読谷サーキットにて調査を行い、その調査結果を用いて予測・評価を行った。

なお、予測・評価にあたっては、影響の最も大きい走行区分(ドリフト走行時)を用いた。

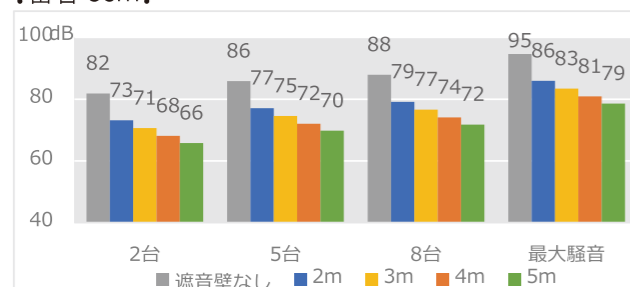
予測項目	発生源から1m地点の パワーレベル	備考
等価騒音レベル (LAeq) 予測時 ※測定時間内の騒音レベルのエネルギーを時間平均したもの	113.8	ドリフト走行時の平均値
最大騒音レベル (LAmx) 予測時 ※測定時間内における最大の騒音レベルを指す	129.6	ドリフト走行時の最大値

■遮音壁を設置した場合の近隣の主要施設へ対する騒音予測は以下のとおりとなった。

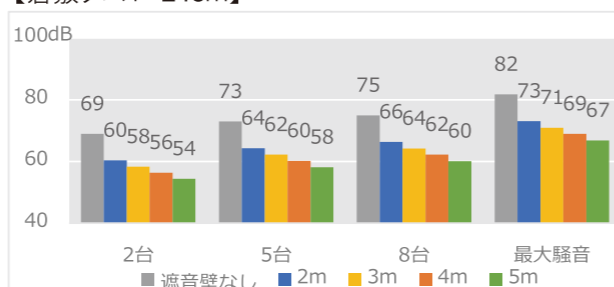
※遮音壁を敷地境界全周に設置すると想定し、高さは2、3、4、5mと設定。また、遮音壁無しも予測。

※距離は整備候補地までの距離を表す。

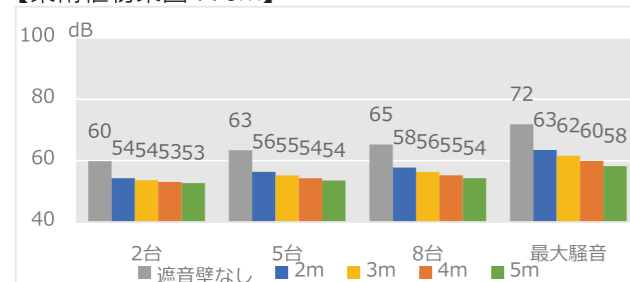
【畜舎 56m】



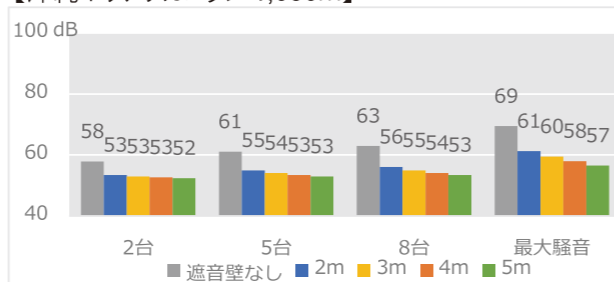
【倉敷ダム1 248m】



【東南植物楽園 779m】



【沖縄ポリテクカレッジ 1,030m】



※対象とする家畜によっては、騒音レベルが与える影響が異なることに留意が必要である。

※整備候補地は航空機騒音の影響を受けている状況もあるため、それら現況を踏まえたうえで騒音対策を検討する必要がある。

騒音対策のあり方

■自主基準設定の考え方

騒音に関する基準として、環境基本法における騒音に係る環境基準等があるが、整備候補地周辺は地域指定されていないことから、自主基準の設定について以下の2ケースを設定する。

【ケース①】関連法令の基準を準用する（環境基準のC類型 60dB を満たすよう努める）

【ケース②】現状騒音環境を超過しないよう基準を設定し、環境保全に努める

■遮音壁設置の考え方

高速道路等で用いられている吸音材活用型を想定するが、整備費と騒音低減効果のバランスを考慮した整備を検討する。

■騒音に係る運用（ソフト）対策

施設利用者のマナーの配慮によって騒音対策の効果を高める。

例えば、最大同時走行台数の制限、走行禁止時間の設定、消音効果のあるマフラー装着、インナーサイレイサーの携行など。

■今後の課題

★周辺の地形状況（地形の起伏など）も考慮しながら、予測の精度を高めた上で、より詳細な検討を行う必要がある

★行政が一方向的に基準を設定しても遵守されないこともあるため、施設利用者と協議しながら取り組んでいく必要がある

5. 整備の基本方針

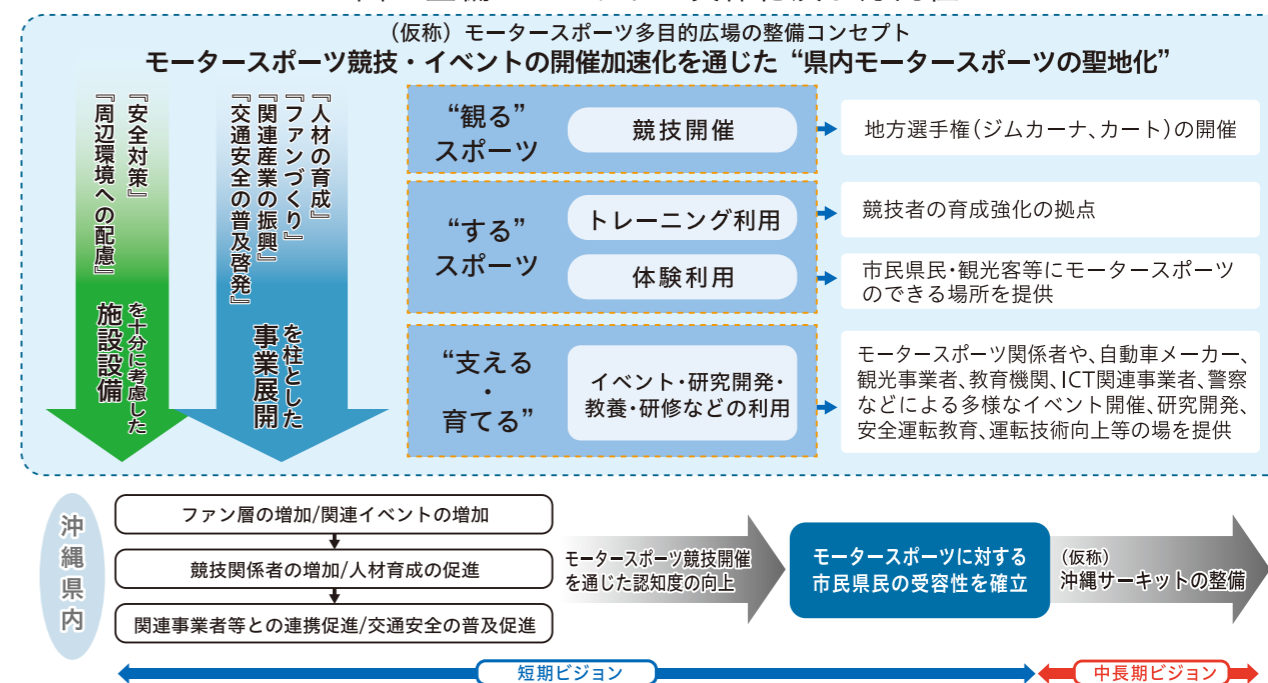
県内広域のモータースポーツニーズ等を充足しつつ、市民のモータースポーツに対する理解を醸成させるため、モータースポーツに用途を限定せず、市民の多様なニーズにこたえる施設として、舗装整備された施設とする。

（仮称）モータースポーツ多目的広場の整備コンセプト

モータースポーツ競技・イベントの開催加速化を通じた “県内モータースポーツの聖地化”

整備コンセプトの具体化に向けて「モータースポーツのスポーツ性向上」を根幹とした事業展開を行う。また、それら事業の効果を最大限発揮できるよう、「安全対策」「周辺環境への配慮」を十分に考慮した施設整備を実現するものとする。

図 整備コンセプトの具体化及び方向性



整備方針 1 人材育成の拠点となる施設整備を目指す

- ・競技者と競技運営者(オフィシャル)の育成・研鑽
- ・競技会開催のための機能を整備
- ・子どもから大人までの多様な世代が鍛錬できる施設づくり
- ・舗装路は平坦性やグリップ性、清掃、管理に考慮

整備方針 2 ファンづくりを推進する施設整備を目指す

- ・日常生活では体験できない多様な体験の機会を提供(特に子どもたちに対して夢や感動を与える)
- ・ファンづくりの視点から、様々な競技誘致やイベント開催等が可能な施設づくり

整備方針 3 関連産業の振興拠点としての施設整備を目指す

- ・(仮称)モータースポーツ多目的広場がモータースポーツ振興の拠点として、施設内のスペースを有効活用しながら、関連産業との連携及び波及効果を生み出せるような施設づくり

整備方針 4 交通安全の普及啓発を図れる施設整備を目指す

- ・車社会である沖縄県における課題を解決するため、交通安全意識の普及啓発に取り組む各種団体と連携しながら、訪れる誰もが楽しく交通ルールを身につけることができる施設づくり

整備方針 5 利用者の安全を確保する施設整備を目指す

- ・必要な安全対策を徹底し、利用者の安心安全な利用環境を整備
- ・走行者及び観客の安全基準を定めるJAF公認コースの規定を踏襲した安全対策の実施

整備方針 6 周辺環境へ配慮した施設整備を目指す

- ・モータースポーツの実施による車両走行等に伴う騒音の影響を軽減する取り組みが必要不可欠であることから、周辺環境へ与える影響に配慮した施設づくり

6. 広場整備計画

安全対策計画

走行者及び観客の安全確保の方針

- 《施設整備に関する方針》
- ・2段ガードレール等を防護設備として活用する
 - ・タイヤバリヤ等の衝撃吸収素材も併用する
 - ・防護設備の後ろに3m以上の隔離距離を設定する
 - ・観衆エリアは舗装路面ゾーンよりも高い位置に設定する

《管理運営に関する方針》

- ・立入禁止エリアや注意事項等を明確に提示するなど、危険性を事前に注意喚起する

救急体制に関する方針

- 《施設整備に関する方針》
- ・救護室を管理棟1階に配置、医薬品等を配備する
 - ・AEDを設置する

《競技開催に関する方針》

- ・大会主催者へ安全対策の確認を実施する
- ・応急手当のできる有資格者等を配置する
- ・救急活動車両（管理車両と併用可能）を複数台配置する
- ・近隣の病院や消防等との連携体制を構築する

《管理運営に関する方針》

- ・施設利用者及びスタッフに事故対応に関する講習等を積極的に実施する

消火体制に関する方針

- 《施設整備に関する方針》
- ・施設利用者が有事の際に素早く対応できるよう、屋外に消火器の設置を行う

《管理運営に関する方針》

- ・消火器のストックを常時確保する
- ・火災発生のリスクや消火方法などの情報提示及び意識向上を図る講習会等を積極的に実施する



舗装路 駐車場
防護設備と駐車場の間に3m以上の隔離距離を設け安全性を高める



防護設備とタイヤバリヤを併用し衝撃を吸収する

駐車場計画

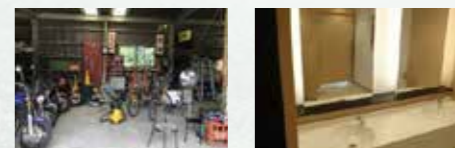
競技関係者用：50台
観客用：50台
計100台と設定

※県内モータースポーツ関連団体の意向より算出
※大規模大会時などにおける近隣への臨時駐車場の確保について引き続き検討を行うものとする

管理棟の整備イメージ



多目的研修室 救護室 受付兼事務室



倉庫 トイレ

屋根付きピット兼パドックの整備イメージ



ピット兼パドック 観覧スペース

施設計画

屋根付きピット兼パドック
※鉄骨造

観覧スペース

管理棟

※プレハブ工法

多目的研修室

研修室・休憩室・大会本部室など

救護室

必要最低限の薬品等を備える

受付兼事務室

スタッフ約4名体制

倉庫

カラーコーン等の備品収納

トイレ

男女トイレ、多目的トイレ

舗装計画

安全性や走行性を確保できる舗装路を検討する

サーキット仕様の舗装

一般道の舗装



舗装路の維持管理等に配慮した舗装構成を検討する

表層(5cm)	熱アスファルト混合物
中間層(5cm)	
上層路盤(25cm)	粒度調整砕石
下層路盤(30cm)	クラッシュラン